



妙見像と貿易陶磁器からみた文化と権威

千葉氏 東アジア文化の受容と

2023 **12**月**9**日 **土**

開催時間 13:00 ~ 16:10
開催場所 千葉大学西千葉キャンパス
けやき会館大ホール

参加無料

募集人数：200名

申込期間
2023年11月1日(水)から
11月17日(金)まで

- ❁ 講演1 ❁
千葉妙見と真武神
講師：濱名徳順 (仏像研究家・茂原市史編さん委員)
- ❁ 講演2 ❁
千葉氏と鎌倉御家人の唐物
講師：小野正敏 (国立歴史民俗博物館名誉教授)



参加申込はこちらから
(裏面もご覧ください)
千葉市立郷土博物館
043-222-8231

木造妙見菩薩立像 (複製：千葉市立郷土博物館 原資料：東庄町)

東アジア文化の受容と千葉氏

— 妙見像と貿易陶磁器からみた文化と権威 —



▲褐釉四耳壺
(猪鼻城跡出土 千葉市立郷土博物館)

千葉氏が氏神・軍神として妙見を信仰したことはよく知られています。千葉氏は妙見の姿として中国の道教における真武神の図像を受容しました。真武神は北方の神・玄武とされ、北宋の時代に真武と改められました。千葉氏は真武神像に基づく「妙見信仰」を浸透させることによって正統性を確立し、一族の団結を図ったのです。このような動きは、千葉氏が宋の文化を受容していたことの表れと考えられます。

一方、猪鼻城跡から12世紀に中国南部で焼かれた褐釉四耳壺が出土したのをはじめとして、各地の千葉氏関係史跡では、中国製の青磁・白磁といった貿易陶磁が多く出土しています。これらはステイタス・シンボル、威信財として、千葉氏の権威や権力を示すものでした。

本公開講座では、千葉氏や房総の諸勢力が「唐物文化」を持ち、中世の房総が「東国の都」鎌倉はもちろんのこと、京都、九州、さらに中国といった東アジアとも関係を有していたことに注目していきます。



▲白磁四耳壺
(長岡堂庭遺跡出土 四街道市教育委員会)

❁ 講演1 ❁ 千葉妙見と真武神

講師：濱名徳順 (仏像研究家、茂原市史編さん委員)

平安期の妙見像は四手で片足立ちするものなど様々であり、それは運命神としての性格を具現化したものでした。一方、千葉氏はその性格を引き継ぎつつも、戦場で勝利をもたらす中世的な軍神(いくさがみ)に変貌させるため、宋代中国に成立した道教の真武神像を導入したのです。亀蛇に乗る武装した童子という妙見神の像容は、千葉氏が大きく東アジアを視野に入れて活動していた武士団であったことを物語っています。

❁ 講演2 ❁ 千葉氏と鎌倉御家人の唐物

講師：小野正敏 (国立歴史民俗博物館名誉教授)

東国武士には荒々しいイメージが先行しますが、御家人の館を発掘すると、唐物と呼ばれた茶・花・香などの高級品が溢れています。武士の都鎌倉は都に負けない唐物が集まる都市でもありました。千葉氏をはじめ有力御家人は、本領とともに鎌倉や京都にも屋敷をもち、都の文化にも精通していました。一方で武家独自の儀礼や唐物志向が形成され、それは列島各地に進出した御家人たちが、鎌倉や源氏将軍とのつながりを誇示し、御家人の階層意識を表現する必須の財産となったのです。

【申込方法】

電子申請もしくは往復ハガキでお申込みください。お申込みの際にいただいた個人情報は、本講座以外に使用いたしません。

◇電子申請での申込み

千葉市立郷土博物館ホームページ内の当講座のページにあるリンクから電子申請によりご応募ください。

◇往復ハガキでの申込み

往信用はがきに「講座名」「申込者氏名(フリガナ)」「郵便番号」「住所」「年齢」「電話番号」、返信用はがきに「返信用の宛名」をご記入の上、以下の問い合わせ先の住所へお送りください。

◇問い合わせ先

千葉市立郷土博物館
住所：〒260-0856 千葉市中央区亥鼻 1-6-1
電話：043-222-8231

【申込期間】

2023年11月1日(水)～11月17日(金)
※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
※往復ハガキでの申込は11月17日(金)
郷土博物館必着。

【アクセス】



JR 総武線「西千葉」駅下車、徒歩7分
JR 総武線快速利用の場合は「稲毛」駅乗り換え
京成千葉線「みどり台」駅下車、徒歩7分

千葉